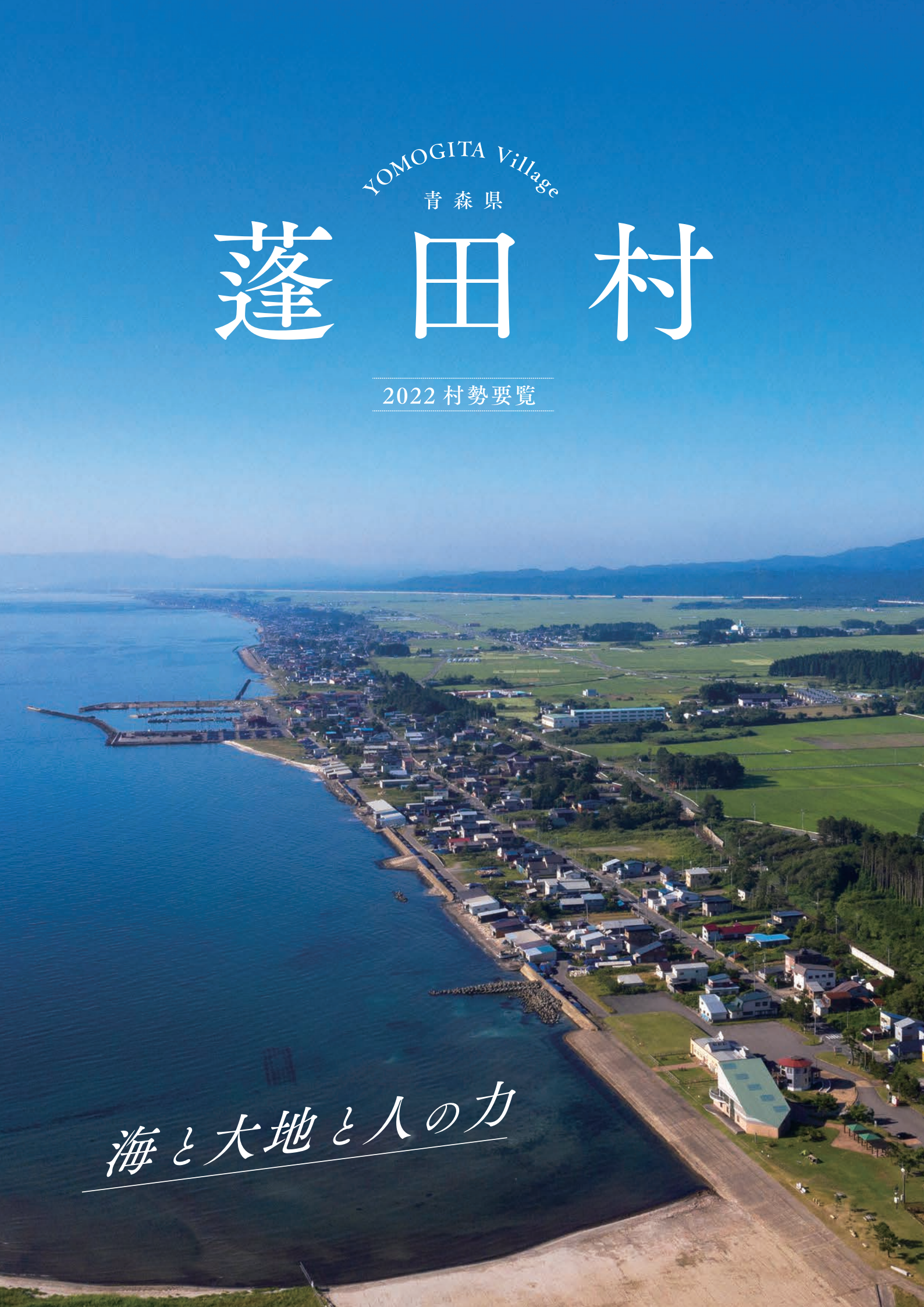
YOMOGITA Village

青森県

蓬田村

2022 村勢要覧



海と大地と人の力



海と人



大地と人



人と人







海と大地と人の力で
蓬田村をもっと
住みやすい村に

東に陸奥湾の海、西に津軽半島の脊りょう中山山脈。その間にあるのが私たちの住む村『蓬田村』です。海と山を財産として昔から半農半漁の村として自然と共生してきました。

私たちが大切にしてきたのは「海・大地・人」です。「海と人」「大地と人」「人と人」とを繋げ共生していくことで、豊かで住みやすい村を目指してきました。

2019年、蓬田村は130周年を迎えました。そして時代は平成から令和へと変わりました。それに伴い社会も技術も大きく変わっていこうとしています。しかし、私たちは海と大地と人の力の繋がりの強さを信じて、それを守り次世代へ引き継いでいきます。

「自然と共に育っていく村」、それが私たちの目指す理想の村の姿です。

〈目次〉

3　村長挨拶　－村制130周年を迎えた蓬田村－

5　海と人の力
6　ホタテ養殖
7　村の駅 よもっと

9　大地と人の力
10　蓬田村のトマト
11　トマト加工品
12　米作りと養鶏
13　蓬田村の自然

14　人と人の力
15　玉松園カントリーパーク
17　株式会社 蓬田紳装
18　蓬田村のイベント
19　さくらパーク

20　蓬田村の基本計画
21　緑豊かな快適な村づくり
23　健やかでふれあいのある村づくり
25　はつらつとした創造性豊かな人づくり
27　活力ある産業の村づくり

29　行政と議会

30　蓬田村村民憲章　蓬田村村章
村の花　村の鳥　村の木
蓬田村の唄　蓬田小唄

31　データで見る蓬田村



村長挨拶

村制130周年を迎えた蓬田村

私たちの蓬田村は、本州北端、津軽半島の陸奥湾沿いにあり、南は県都青森市と北は外ヶ浜町と接しています。村土面積は約81㎢、人口は約2,600人の小さな村で、明治22年の町村制施行以来合併をしたことがありません。村内には遺跡も多く、古くから居住に適した土地であったことがうかがわれます。

しかし、夏にかけて偏東風（いわゆる「やませ」）が続く冷涼な気候風土で、何度も冷害に見舞われてきました。先人は、稲作中心の農業を推進し、「上磯の米倉」とまで言われるようになりました。最近は、桃太郎トマトの村としても知られています。工業では、紳士服・婦人服の縫製工場である（株）蓬田紳装があり、従業員170名が働いています。また、自然豊かで山菜などの山の幸、ホタテ貝などの海の幸にも恵まれた日本のふるさとのような村です。

交通アクセスは、青森市の中心部までJR津軽線で30分、国道280号線を車で30分、東北新幹線新青森駅から車で20分と大変近い位置にあります。

交流人口が増え、地域が活性化することで人口減少に歯止めをかけたいと期待しておりますので、どうぞ一度蓬田村にお越しください。

令和4年3月

青森県東津軽郡
蓬田村長　久慈 修一















村制施行130周年記念式典 令和元年(2019年)12月8日

令和元年12月8日、ふるさと総合センターにおいて蓬田村村制施行130周年記念式典が行われました。村長や来賓の挨拶に続き、かわいい鼓笛隊の演奏、蓬田村のビデオ上映、玉松太鼓の演奏が行われ、村のために長年尽くしていただいた39名と1団体へ表彰状が授与されました。

海と人の力

蓬田村

後継者を育て販路を創る
ホタテ産業の未来を自分たちで切り開く。



ホタテ養殖業

福田 伸吾さん

現在蓬田村でホタテ漁をする人は3年前と比べると3軒減って43軒になった。しかし福田さんは言う。「全体的に高齢になってきているのは事実です。跡取り問題は深刻な問題ですが蓬田村はまだそうでもないと思います。自分の船も中学校の生徒にホタテ漁の体験をさせる活動をしていますが、ちゃんとこの職業がお金になるんだっていうことを説明してあげれば興味を持ってくれる子もいるんじゃないかと思っています」そう言って福田さんは自身の経験を語ってくれた。

「自分は絶対にこの仕事は継がないと思っていました。考えが変わったのは結婚してからですね。収入とか生活とか考えるとこれだけ魅力的な仕事というのはなかなかないんだなぁという事に気付きます。この仕事は一生やっていけると感じました。それが子どもたちにも浸透していけばホタテ養殖という産業はずっと続いていくと思います。うちの子どももそんな話を聞いて後を継ぐと言っています。本気かどうかわかりませんが（笑）」

蓬田村の漁業組合には若い人で結成されている青年部がある。「常に皆で情報をやり取りし、助け合いながら活動しているので、たとえ不安があっても大丈夫、1年生からでもホタテを養殖していくことは可能」だという。福田さんたちが取り組んでいるのは後継者を育てることだけではない。インターネットを活用した販路の拡大もそのひとつだ。「今ネットを使って蓬田村のホタテをもっとアピールしていく取り組みをしています。自分の場合2・3年貝をネット販売しています。お客様は福島県や東京都内にお住まいの方たちです。蓬田村のホタテは高い評価を頂いています。青森県陸奥湾産のブランド力の手応えを感じています。それが励みになり、力にもやりがいにもなります」さまざまなものが変化していく社会でホタテ産業のイメージも見直されつつあるのかもしれない。



蓬田村が誇る、海の恵み

ホタテ養殖

基幹産業としてのホタテ

基幹産業へ成長した「ホタテ養殖」

陸奥湾は潮流がゆっくりとしており、閉鎖性の高い良好な水域で全体が豊かな漁場となっています。カレイ、イワシ、タイなどが生息・来遊しており、これらを対象とした小型定置網、小型機船底びき網、刺網などの漁業が盛んです。また湾内全体でホタテやナマコなどが養殖されており、青森県のホタテ貝の30%以上がここ陸奥湾で水揚げされています。蓬田村の漁業はホタテ養殖が主となっており、現在ホタテ養殖業を営んでいる漁師は40軒あまり。高齢化や後継者不足の懸念はあるものの世代交代が進んできています。地元に戻ってきた若者が跡を継いだり、青年部をつくって情報交換をするなど活動も活発化しています。

また中学校では村の産業を学ぶ授業として「ホタテ養殖の体験学習」を取り入れています。









漁場環境の保全

蓬田村は漁場環境を守るため、さまざまな取り組みをしています。そのひとつが森の保全。蓬田三山（大倉岳、赤倉岳、袴腰岳）の森林の整備を行うことで、ブナ林から栄養豊富な水が川から海へ流れ込み、魚の餌となる植物プランクトンが増え、魚が集まります。それが豊かな漁場を守ることにつながるのです。さらに「ホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設」でホタテ残渣から堆肥を作り、村内外の農家などに無料配布するなど農・漁業一体で環境整備に努めています。



地域の食生活を支える村の台所

村の駅 よもっと

地産地消 そして ブランド化を 目指して

国道280号バイパス沿いにある「村の駅よもっと」。平成16年のオープンから17年になります。今や地場産業のアンテナショップとしてすっかり定着しています。

「よもっと」の特徴はなんといっても大きな生簀（いけす）、その中では陸奥湾で獲れたマダイやサバ、カレイ、ホヤなど季節によってさまざまな活魚が泳いでおり、買ったその場で捌いてもらうこともできます。村民ばかりでなく、お隣の青森市の飲食店の方々も訪れます。もちろんホタテも扱っています。活魚の他にも塩辛や燻製などの加工品や地元の農家と契約した新鮮な野菜を豊富に取り揃えています。



「村の駅よもっと」が目指すのは「地産地消」、そして蓬田ブランドの確立です。村の安心・安全な美味しい物を少しでも安くお客様に提供し、蓬田村の名産品を世の中に広め、販売・流通と観光産業の要所となることを目指しています。



将来的には「よもっと」ならではの特産品をつくりたい

村の駅よもっと駅長
下山 勇樹 さん

「村の駅よもっと」ができて17年になります。10年ぐらい前にNHKの朝番組で全国放送されたことがありました。その時は焼き干しを取り上げていただいたのですが、おかげさまで近隣の方にも知っていただけるようになりました。そして「よもっと」は新鮮な魚が自慢です。市場を通さないで仕入れているのでその分お買い得です。特に活ホタテに関しては県外の方にも覚えていただいてますね。だんだん固定ファンがついてきた感じがしています。

「よもっと」は食堂もあって買い物もできます。外のテーブルでちょっと待ち合わせする方とか、水を飲みに来たりお菓子を買いに来る子どもたちもいます。すっかり村の寄合所的な役目も果たしていますね。なにより魚の他に野菜も地元のものなので、地域の人たちにも安心して買ってもらえていると思います。

大きなおにぎりやお弁当も固定ファンが増えてきました。お弁当は朝に注文を頂いてお昼に配達というシステムもできていて注文も増えています。今考えてるのはお弁当お惣菜をもっと充実させることです。そうすればもっとお客様に喜んでいただけるんじゃないかなと。あと村の農産物、ミニトマトのベビーベビーなどはまだまだ収穫量が少ないので村内はマルシェさん、他には村外のデパートでしか置いていません。そういうものも含めて村の名産品は全部置いているような所にしたい。今はどちらかというと地元向けの店であるのでもっと蓬田村の特徴を出せるような特産品を作っていきたいですね。










「村の駅よもっと」にはお弁当の販売や食堂もあります。なかでもお客様が驚かれるのが10cmを超す「大きなおにぎり」です。具は梅干し、鮭、たらこ、筋子、焼き味噌の5種類で、隠れたよもっとの名物となっています。そしてお弁当は安くてボリュームがあると大評判。店内で調理した焼き魚や煮物が入った幕内、ボリューム満点のカツ丼や牛丼はすぐになくなってしまう定番メニューです。

また食堂ではさまざまな定食やラーメンなどを食べることができます。お昼時ともなれば地元の人が訪れテーブルを囲んで世間話に花を咲かせ、近隣の方々がドライブがてらふらりと訪れても楽しむことができる、いわばコミュニティの場として村の観光に一役買っています。

蓬田村の名産品と特産品



トマト（各種）

大玉トマト「桃太郎」はもちろん、甘さや食感が特徴的なミニトマトも評判。



トマト加工品

蓬田村のトマトを使った加工品の数々。焼き肉のタレやドライトマトも加わりました。



ホタテ

ホタテの貝殻に、味噌とホタテと卵を入れた貝焼き味噌は今も変わらない郷土料理です。



卵

青森のお米で育った鶏から生まれた卵や、採卵期間を限定した卵です。



フライまんじゅう

中に餡が入っている丸いあんドーナツ。外はカリカリ中はしっとり。



まっしぐら

じっくりと手間ひまかけたお米です。農家の愛情と心意気がギュッと詰まっています。



トゲクリガニ

青森県ならではのカニ。甘く、濃厚な味わいのカニ味噌、メスの卵は絶品。



北のよもぎ茶

柔らかいうちに摘んだよもぎの葉と、玄米でつくったお茶です。胃に優しい健康茶です。

大地と人の力

蓬田村

自分も蓬田ブランドを担う一人となって トマト産業の振興に役立っていきたい。



ミニトマト生産農家

増尾 一洋さん

愛知県出身、東京でサラリーマンをしていたという増尾さんは蓬田村移住組だ。「元々田舎暮らしには憧れていました。50も近くなるとだんだん定年も見えてくるじゃないですか。東京でサラリーマンを続けていくよりもっと豊かな人生の送り方もあるんじゃないかと思って」そして大きな決断をして蓬田村にやってきたのが5年前、51歳の時だった。「青森県でトマト農家を選んだのは、妻が十和田市出身だったこと。そしてミニトマト作りを選んだのは、比較的小さい規模から始められ、実現性が高かったからです」こうして増尾さんはトマト農家として第二の人生のスタートを切った。

「想像はしてましたが大変でした。それまで野菜を作ったのは家庭菜園ぐらいでしたから。夏にトマトを作るのは東北地方など北の地域だけということも知りませんでした。研修では津島鉄平さんに就いて一からトマト作りを学びました」トマト農家のイロハもさることながら、蓬田村に決めたのは村のサポートも大きかったという。

「蓬田村へは押しかけて行ったという感じです。にもかかわらず家と農地を斡旋してくれたりいろいろ手助けしてもらったのはありがたかったです」今では仲間のトマト農家とも協力してミニトマトと向き合う毎日だ。トマトは言わずと知れた蓬田村の基幹産業のひとつ。外からやってきた増尾さんはそのことについてどのように思っているのだろうか。

「蓬田ブランドを大切にしていきたい。私としてはもう蓬田村の一員だと思っていますから。村でトマトを作っていくということが生業になって十分食べていけるんだよということが広がっていけば人が集まってくると強く思います。自分がそういう役割になって果たせていければ」ちなみに当面の目標は「村に自分の家を持つこと」増尾さんがトマトにかける情熱は本物だ。



村と共に育ってきた

蓬田村のトマト

もうひとつの基幹産業として

農産物の高付加価値の促進としてのトマト栽培

蓬田村では水田の有効活用を図るため高収益作物への作付転換を進めてきました。夏秋トマト、ミニトマト、タマネギ、イチゴ、ニンニクなどの高収益作物の作付を拡大することで新たな農作物の「蓬田ブランド」を作り出すことが目的です。

実はそのひとつがトマトでした。もともと蓬田村は一年の平均気温が約9.0～10.0℃と冷涼でトマトの栽培に適していました。稲作中心の農家が高齢化や後継者などの問題で減少していく中で成長していき、水稲に次ぐ作物となりました。



新たなトマト農家の育成づくり

トマト農家も高齢化や後継者不足で作付け面積が減少傾向にあります。村では県内外から移住する新規就農者のために中沢地区に「トマトハウス団地」を増設し希望者には農業研修を行っています。地元のトマト農家と提携しながら、約2年間の農業研修を受けた後に就農することができます。





安心安全な農産物への取組

蓬田村のトマトの大玉は主に「桃太郎」、他にも数種類の高級なミニトマトが栽培されています。冷涼な気候を活かして、有機栽培や低農薬栽培を展開した環境にやさしいトマトが蓬田村の理想とするトマトです。これは他の農産物にも当てはまります。安心・安全な農産物はまさに人と大地の力の結晶です。



それは"とまとけちゃっぷ"から始まった

トマト加工品

トマトの村にふさわしい商品を

蓬田村ではトマトの販売はもちろんですが、近年「トマトの加工品」が注目されています。

「作るだけではなく、トマトを産む村だからこその美味しい加工品を」と考え平成13年に結成されたのが「蓬田トマト加工グループ」でした。最初の商品「とまとけちゃっぷ」を「よもぎた物産館マルシェよもぎた」で販売。その後ソースやピューレ、焼き肉のタレなど商品点数を増やしていき、青森県のさまざまなイベントで販売を開始。今では商品数は7種類に増えました。すべて完熟した美味しいトマトを贅沢に使っています。トマト農家が自ら加工して作っているので味も保証付きです。









インターネットを使った販売システムを村の中で作りたい

蓬田トマト加工グループ代表
藤田 かち子 さん

蓬田トマト加工グループが出来て20年、加工の動機は農協の一角を借り小さなプレハブの直売所を立ち上げたことからでした。野菜ばかりの販売では品揃いに欠け、品揃えを良くするために加工品も必要ということでご飯ものや、餅などの加工品を出しました。そんな中、自分達の栽培しているトマトで賞味期限の長い加工品が出来ないものかと、指導を受け、出来たのが「とまとけちゃっぷ」でした。現在、会員5名、商品数7種類、ビン物とパウチを含めれば10種類になります。

新商品では蓬田産の桃太郎トマト、タマネギ、ニンニクを使った焼き肉のタレ「トマッタレ」を3年前に発売しました。中でも「とまとけちゃっぷ」と「パスタソース」はとても評判が良く、特に「とまとけちゃっぷ」はすっかり馴染みの商品になっています。お客様から「ネット販売」をすればとの声もありますが、いろいろな事情でネットを扱えない私達です。私達の代わりにネット販売をしてくれるシステムが村内にあればいいなと思っています。それが今の私の夢です。

ネットを活用した販売が出来れば、村内にある他の商品なども利用でき、後に続く人も育ってくると思います。





生活の基盤になる農作物を

米作りと養鶏

地元に根付いた産業の誇り

米作りと養鶏、どちらも生活の基盤となる産業です。消費者の安全・安心指向がますます高まりを見せる中、蓬田村では「安全・安心」の農産物の生産に取り組んできました。米作りを始め多くの農作物は有機栽培や減農薬栽培を展開し、もみ殻堆肥センターやホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設で作られた堆肥を使い環境に優しい良質な土づくりから取り組んでいます。

養鶏は企業でも個人経営でも行われ、より良い卵づくりを目標としています。どちらも衛生管理は徹底しており、卵の安定供給に努めています。







卵の生産量を増やしながら一個一個の価値を高めていく

坂本養鶏株式会社代表取締役
坂本 佐祐 さん

現在香港に輸出しています。元々鶏卵は5カ国ぐらいしか輸出できなくてその中で一番マーケットが大きかったのが香港でした。そこに先を見据えてやっていこうと3年前から取り組みを始めています。うちの卵は卵黄色が濃く付加価値が高い青森ブランドとして意識されています。このように、お客様が価値を感じていただける商品を、国内はもちろん国外にも販売先を増やしていくつもりです。

今目標とする5年後10年後のビジョンは、生産力を高める・販路を増やす・自社ブランドの加工品を作る、この3つです。



いずれ農業が当たり前に職業選択のひとつになる

米生産農家
若佐 克秀 さん

小学校では、田植えや稲刈りの体験をさせています。体験した時にそういう楽しい思い出があるというのは大事なんですね。

今までの農業のイメージは労働というイメージだったんですけども、これからの農業とは科学とテクノロジーの部分が重要視されていきます。田植えもGPS機能が付いた田植え機で寸分狂わない間隔で田植えができる。販売もネットで行う。その中での楽しい思い出、つまり「農業は楽しくてかっこいい」が今の農業のイメージです。子どもたちが大人になった時、仕事の選択肢の中にぜひ農業を加えてほしいと思います。



蓬田村が誇る自然の大地

蓬田村の自然

豊かな
山と森との
共存

自然がくれた財産は海だけではありません。山と森も大きな村の財産です。蓬田村はそれらとの共存という道を選び、次世代へ残していきたいと考えています。山や森を守ることは農業・漁業を守ることに繋がります。

また山や森は人にとっても安らぎを与えてくれる場所でもあります。蓬田三山はブナやヒバが生育し、白神山地と非常に似た植物相となっており、登山道や黒滝への道は季節ごとに山野草に彩られ山菜やキノコの宝庫でもあります。小学校では子どもたちに蓬田村の自然を知ってもらおうと大倉岳登山や黒滝へのトレッキングを授業に取り入れています。











子どもたちに伝えたい蓬田村の大切な宝のこと

大倉山好会 会長
藤本 正人 さん

私たち大倉山好会は、蓬田三山の大倉岳・赤倉岳・袴腰岳の登山道の整備、それに加えて黒滝への遊歩道の整備、大倉岳にある避難小屋の管理などが主な活動内容となります。しかし活動はそれだけではありません。子どもたちと一緒に山に登ったり黒滝へ行く。それも活動のひとつです。

7年前に小学校の先生と話した時、地元で生まれ育っても山に登ったことがないという子どもたちが多かったんです。それでそういう子どもたちを山に登らせてあげたいなぁと話したのが最初でした。今では大倉岳登山は小学校6年生を、黒滝は4年生を対象にしています。感想を聞くと「疲れたけれども景色が綺麗だった」とか「みんなと楽しく登れた」という声が多かったですね。黒滝へは川の中を歩いて行くのですが、夏場であれば水がすごく気持ちがいいんです。広葉樹の緑のトンネルに流れる川を歩いて登っていくというのはなかなかできないことです。秋も素晴らしい。紅葉が始まると夏とは全く違う表情を見せてくれます。登山にも川にも滝にも子どもたちはすごく感動してくれました。

蓬田村のこの三つの山はほとんど手付かずの自然です。そんな豊かな自然なので、川にミネラルが流れ込んで漁業にも良い影響が出ているんじゃないかと考えています。良い山を作れば良いホタテが獲れる、そういうことが村のいう自然との共存だと思います。

子どもたちには、山はもちろん海も蓬田村にとっては大切な宝なんだよということを伝えていきたいですね。

人と人の力

全員の音が揃った時が最高に気持ちいいですね。



玉松太鼓保存会
大宮 哲也さん

「もう30年になるんですね」そう語るのは玉松太鼓保存会の事務局を務める大宮さんだ。「玉松太鼓は平成元年の時に蓬田村の村制100周年を記念して始まったんです。最初は当時の役場の職員でやっていました。それが一度活動を中断して、平成12年に保存会という形で復活しました。ですから玉松太鼓自体は短いようですがもう30年の歴史があります」

『玉松太鼓』、村民なら必ず一度はその演奏を耳にしたことがあるだろう。村民祭や芸能発表会、また青森市などの村外で行われるイベントでも演奏している。「多い時には年5・6回以上いろんなところへ行って叩いていました」

現メンバーは演奏者8名とスタッフが4・5名。その中には女性の演奏者もいる。この30年間での演奏者は延べにすると40〜50名にもなる。「自分が初めて玉松太鼓に参加したのは小学生の時でした。部活の後に練習していた頃が懐かしいですね」しかし目下の悩みはなかなか次世代に繋げていくことができないこと。練習時間が午後7時半から8時半であること、また、1曲覚えるのになかなか時間がかかるということもあって、小中学生や新規会員が来づらい状況だからだ。

「それでもこれからも続けていきたい」と大宮さんは言う。「和太鼓は耳で聴くものではなくお腹で感じるものだと思います。手に伝わる振動、バチの跳ね返り、体全体で感じる楽器です。そして何より全員の音が揃ったときは最高に気持ちがいい。それが和太鼓の醍醐味です。それを是非感じてください」

保存会はいつでもメンバー募集中だ。「最近太鼓を2台新調しており、衣装も新調しました。人を増やす体制はできています。我こそはと思う人はいつでもきてください。30年という歴史が長いか短いかはわかりません。ですが、これから新たな伝統を一緒に築いていくことはできます」大宮さんの夢はこれからも続いていく。



北緯41°のレクリエーション施設

玉松園カントリーパーク

集い、学び くつろぐ 交流エリア

「玉松園カントリーパーク」は村民憲章に掲げた『明るく住みよい村づくり』の一環として、ふれあいの場を提供し、健康の増進を図る目的で整備された海洋性レクリエーション基地です。

海水浴場には物産館「マルシェよもぎた」や「たまつ海の情報館」があります。そこから線路を越えて西に行くと美しい「古城の沼」のある「玉松台」が、さらにその奥には野球などが楽しめる「玉松台スポーツガーデン」とさまざまなイベントで活用される「ふるさと総合センター」があります。そして村の憩いの場「よもぎ温泉」があるのもここ。

物産館で買い物をしてぼんやりと海を眺めるのもよし、少し足を伸ばして玉松台を散策するもよし、スポーツの後、温泉で汗を流すのもよしの誰もが心身ともにリラックスできる施設です。




玉松


玉松台

玉松台

玉松台には不思議な形をした松があります。『玉松』(樹齢およそ300年) がそれ。太い枝が輪状になっており、江戸時代には青森港や油川港へ向かう船が灯台の代わりにしたと伝えられています。そして同じ敷地内には日露戦争で亡くなられた兵士のお墓と忠魂碑があります。戦死しても魂だけは故郷に葬られたいと願う出征兵士が建てたものです。

玉松台スポーツガーデン・多目的広場

誰もがスポーツを気軽に楽しめるのが「玉松台スポーツガーデン」です。芝生の外野席とスコアボードも完備された野球場があります。ホームベースからスタンドまでの長さが両翼とも97メートルと広さが自慢。青森市内からも近いため、村民だけでなく高校野球の練習や県大会の試合、もちろん一般の野球チームにもよく利用されています。その近くには桜の美しい「多目的広場」もあります。


野球場


多目的広場





蓬田産トマト



オオハクチョウ

よもぎた物産館マルシェよもぎた

蓬田村の名産品であるトマトやトマト加工品を販売しています。人気なのはなんといっても「蓬田産トマト」。トマト加工品ではケチャップが一番人気。蓬田村の名産としてすっかり定着しました。

店内にはカフェもあります。窓辺に並べられた椅子に腰掛けて、蓬田産トマトを使ったソースで作ったパスタやオムライスなどのランチやアイスクリームはいかがですか。そしてあまり知られてはいませんが冬になるとオオハクチョウがやってきます。すぐ間近から見ることができます。





多目的ホール



図書館

ふるさと総合センター

福祉・公民館などの機能を持つ総合施設で、さまざまなイベントに使用され250名収容できる多目的ホールが自慢です。他にも調理室、会議室などがあり、中でもオープンスペースになっている図書館は利用しやすいと評判です。会議室や調理室ではさまざまな研修が行われます。まさに村民の交流の場として大活躍の施設です。



ふれあいセンターよもぎ温泉

泉質はナトリウム塩化物強塩泉。切り傷や火傷、慢性皮膚病などに効果があります。大浴場と源泉の湯、サウナが完備されています。また大広間もあり誰でも利用できます。



たままつ海の情報館

玉松海水浴場にある海の学習施設。1階は玉松海岸の模型があり、パネルを見ながら蓬田村の海のことが学習できます。2階は陸奥湾が一望できる展望コーナー。

蓬田村の歴史を辿る



蓬田城址（大館）

小館遺跡の北にある蓬田八幡宮。ここが蓬田城址です。南北朝時代の豪族の居館だったと伝えられますが、誰がいつ建てたかは不明です。天正13年（1585年）に城主・蓬田越前が南部に去り、廃城となったとされます。昭和50年、発掘調査が行われ、縄文時代の土器・石器・土師器・恵寿器・擦文土器・中国産の白磁と青磁や、すき・短刀・なたなどの鉄製品が発掘されました。



権現舞

権現舞とは、正月に獅子舞の一団が各戸を回り、獅子頭によって五穀豊穣・無病息災・火伏せなどを祈祷する神楽で、山伏神楽とも呼ばれます。主に青森や岩手の風習とされています。蓬田村では、50年以上前から行われており、長科地区の長科権現様保存会、蓬田地区の蓬田権現様保存会などが『権現様』の保存・継承に努めています。



小館遺跡

阿弥陀川上流右岸の台状遺跡。昭和46年に発掘調査が行われ、多数の擦文土器・土師器・鉄片・鉄さい・炭化したヒバ材や、竪穴住居跡や粘土でつくられたカマド跡が発見されました。北海道在来の文化に東北経由で北上した大和の文化が接して生まれた擦文土器が大量に出土したことで、アイヌや、蝦夷との関連が注目されるきっかけとなりました。





龍澤山正法院

慶長18年（1613年）、長勝寺（弘前）の14世聖岩雲祝和尚によって開かれた曹洞宗の寺院。寛文2年（1662年）に現在地に移転し、松前公の参勤交代の休憩所として航海の安全を祈願したと伝えられます。寺宝は微笑仏で知られる円空作の観世音菩薩座像（木彫仏像）。山門で出迎えるのは、奈良・東大寺の仁王尊像に倣い、青森市後潟の船大工・工藤源蔵が4年の歳月をかけて昭和5年に完成させた2体の仁王尊像です。（県重宝）



創業40年以上の信頼と実績

株式会社 蓬田紳装

新たな雇用を作り出した人の力

蓬田村に「村内女性の働く場をつくりたい」を基本理念として、昭和51年（1976年）に県外の企業誘致を決めました。蓬田村と北海道小樽市の大手紳士服メーカーの共同出資により、昭和52年（1977年）、第三セクターの誘致企業として創業、今では、蓬田村最大の雇用の場となりました。

その基本理念は現在も変わることなく、社員数は正社員、嘱託社員、パート社員合わせて170名を雇用するまでに成長。うち女性従業員は8割以上、社員分布は蓬田村、青森市、外ヶ浜町、今別町と近隣市町まで広がっており、労働集約型企業としても地域に貢献する企業になっています。





特筆すべきはその品質の良さです。紳士服のイージーオーダーでは全国一、二位を誇る技術を有し、首都圏の老舗百貨店や政財界、芸能界からの依頼も受けるほどになりました。

以来、人の力とコンピュータを駆使し、常にクオリティを重んじる服づくりを続けており、縫製精度の高い確かなオーダースーツ工場として高い信頼を得ています。



モノ造りのプライドをかけて これからも挑戦し続けます

株式会社蓬田紳装工場長
今 順司 さん

目下の悩みは社員の平均年齢が上がって定年で退職される方が多く、反面新しく入ってくる若い方が少ないということですね。アパレル関係はモノを作るよりもデザインする方に魅力を感じてしまうのはわかりますが、本当は「良いものを作ること」というのは本来面白いものです。先の話になりますがこれからも若い人たちを雇用していきたいと考えています。

蓬田紳装の5年後10年後のビジョンは「今まで通り質の良いものを作っていくこと」です。ひとつの工程を習得するのには2年ぐらいかかります。それだけ時間をかけないとものになりません。やはり技術職なのでちゃんと訓練をして、お客様にきちんと納められる技術がないといいものは作れませんから。若い人たちにも入ってもらってゆっくり育っていって欲しいと思っています。

新しいアイテムも、販売の方で少しカジュアル的なものを取り入れようと考えています。かっちりとしたスーツだけではなくカジュアルなジャケット、冬ならMA-1のようなジャンパーなどの取り組みもしております。まずは新しい仕事の先を広げ、仕事の量を増やしていけないと考え、御幸毛織というところと一緒になって新しい商品を考えたりアイデアを出し合ったりしているところです。

やはり百貨店に卸しているという誇りもあるのでもっと良いものを作っていきたい、と同時に時代の中でいろいろな対応をしていく必要があると考えています。その思いを胸にこれからも頑張っていきます。

蓬田村のイベント



さまざまなイベントを通じて
人と人とが、もっと強く繋がっていく

人口や面積の大小に限らず、人は一人では生きていけません。
だからなにより人との繋がりを大切にしていく必要があります。
蓬田村は小さな村ですがなによりも人との絆を大切にする村です。
その架け橋になっているのがさまざまなイベントです。
観客も参加する人も運営する人たちも一つになって、みんなが同じ時間、同じ場所で笑い楽しむ。
そうした一人ひとりの力が強い力へ変わっていくのだと思います。
蓬田村ではこれからも皆さんに喜んでいただけるイベントを用意していきます。

玉松海まつり







毎年8月の第一日曜日に玉松海水浴場で行われる夏の最大イベント「玉松海まつり」。村民だけでなく誰でも気軽に参加できます。豪華商品がもらえる砂浜での宝探しや、トマトジュースの早飲み競争、玉松太鼓やねぶた囃子の演奏など楽しい催し物がいっぱい。玉松海水浴場ではこの他にも青森県のビーチバレーフェスティバルとして開催される「よもぎた玉松ビーチバレー大会」(7月) も行われています。

よもぎた村民祭







毎年秋にふるさと総合センターで開催される「よもぎた村民祭」。村民の中にも楽しみにされている方々がいらっしゃることでしょう。前広場では出店の他に蓬田村で獲れたトマトやホタテ、加工品などが販売され、ホールやステージでは健康相談会や玉松太鼓・ねぶた囃子などさまざまな催し物が発表されます。また村民が作った草履や盆栽、籐籠なども展示されます。まさに村民の力が結集される一日です。

村民ふれあい芸能発表会







同じくふるさと総合センターで行われる「村民ふれあい芸能発表会」。芸自慢の村民の方々の練習の成果が存分に見られるステージが繰り広げられます。グループで、少人数でまた一人で参加される方々や子どもからお年寄りまで、年齢もさまざまなら内容も楽器演奏や日舞やダンスに歌とこれもまたさまざま。普段知った顔でも知らなかった意外な一面が見られるのも芸能発表会ならではです。



村民の力で作った公園
さくらパーク

中沢地区にある「さくらパーク」は平成13年（2001年）、地区の人たちの力によりできました。まさに村民手作りの桜の公園です。広さは2,379m²、園内にはおよそ30本の桜が植えられており、ベンチや東屋も設置されています。道路を挟んだ向かい側にも桜が植えられており、ちょっとした桜並木になっています。手入れもよくされており、お弁当を片手に桜を見に行っても楽しそうです。看板には作った人たちの笑顔の写真に「自然を守り地域の和」という言葉が添えられています。

















傘松佛苑観音堂

同じく中沢地区にある「傘松」は、樹齢約300年の老松で全ての枝が地面を目指すように成長しているという珍しい松です。その枝ぶりが傘を広げたように見えるところからこの名前がつきました。昭和60年（1985年）に村の指定文化財に指定されています。また、本堂内には災いが訪れそうになると漆黒となり露をもらすと云われる傘松観音もあります。

豊かな自然と共生する活力のみなぎる村

蓬田村の基本計画

基本理念



基本目標と将来像

- 緑豊かな快適な村づくり
- 健やかでふれあいのある村づくり
- はつらつとした創造性豊かな人づくり
- 活力ある産業の村づくり



●オオハクチョウ

基本目標と将来像

緑豊かな快適な村づくり

自然とともに、四季とともに生きる

蓬田村は海と山の豊かな自然に恵まれた村。四季折々に魅せてくれる風景の中で私たちは生活を営んでいます。その自然環境や動植物、海洋資源を守り未来へ引き継ぐことが求められています。

そのためにはどのような村を創っていけばよいのでしょう。

例えば、環境保護をふまえた計画的な住宅建設や公園整備、海を汚さない排水対策、自然を壊さない道路・交通・ネットワークの整備、リサイクル運動など、環境に優しいライフスタイルや新たな村のあり方を創造していきます。

衣食住と産業や交通が自然と共生できる村を目指します。





人と自然の共生を実現する蓬田村の施策

人と自然の共生、それは私たちが生きていく上で避けては通れない永遠のテーマです。地球温暖化が問題となっている今、どれだけ自然に負荷をかけないライフスタイルを作ることができるかが重要な課題となっています。

例えば森林環境の保全では森林の間伐や保育の充実を図り、海の水質汚濁の防止では村全体で玉松台周辺清掃奉仕活動や海岸などのクリーン運動を行う他、ホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設の活用などさまざまな取り組みを行っています。また、生活環境の向上のため、ごみ分類の細分化や不法投棄の防止、資源ごみの廃品回収を行うなど環境意識の向上に努めています。

こうした環境保全の数々は住民の意識と連帯を高め、火災や地震・台風などの自然災害時に迅速に対応できる体制作りにも繋がります。

自然環境や景観を守りながら生活と産業を発展させることで、緑豊かな快適な村を創り、次世代へ残していきます。



●消防団



●スクールバス



●除排雪



●村営住宅

さまざまな取り組み



●玉松台周辺清掃奉仕活動

夏の観光シーズン本番を前にした7月、蓬田小・中学校の生徒、赤十字奉仕団、徳誠園、村老人クラブ連合会の方々の協力を得て、ゴミ拾いや草刈りといった清掃活動を行っています。清掃地域は玉松海水浴場、玉松台、古城の沼周辺。また、漁業関係者は村内の海岸の清掃活動を行います。



●廃品回収

毎年4月と11月、各自治会と子ども会が協力し、廃品回収活動を行っています。回収は朝8時からスタート。各家庭の前に出された古新聞や雑誌、空ビンなどを集めて回り、ふるさと総合センター駐車場に運びます。資源はまとめて再資源化のために回収業者に渡し、収益は自治会や子ども会の活動費用に充てられます。



●交通安全運動

家庭・学校・職場・地域が一丸となって交通事故ゼロを目指し、ドライバーにシートベルトの着用の呼び掛けや安全運転を促すチラシの配布、若年者や高齢者に運転者教育を行うなどの運動を実施しています。また道路照明やカーブミラー、ガードレールなど交通安全施設の整備を進めます。



●ホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設

ホタテの養殖かごについた貝類などの残渣（ざんさ）を資源として再生・循環させる施設が、平成27年6月に完成しました。残渣に鶏ふんやもみ殻などを混ぜ、発酵させて堆肥にし、農家などに無料配布しています。循環型の処理方法の構築に向けた取り組みは県内の漁業関係者から注目を集めています。



●けんこう運動教室

基本目標と将来像

健やかでふれあいのある村づくり

家族とともに、健康とともに生きる

わが国は少子高齢化が進み蓬田村も例外ではありません。若者の村外への流出対策、子育ての負担軽減、高齢化社会への対応など、あらゆる家族、世代が安心して健康に暮らせる環境づくりが早急に求められています。

こうした状況の中で村が目指すのは「ゆとりがある暮らしの実現」です。モノの豊かさより、心の充足へと意識が変化している今、蓬田村では村民が有効に活用できる多様な施設であるハード面と、それらを最大限にサポートする制度や交流グループなどのソフト面を融合し、福祉環境を充実させていきます。子どもや子育て中の方々、高齢者や障がいを持った人が地域社会の一員としてゆとりを持って暮らせる環境を整えていきます。





●住民健診

子どもも子育て世代も高齢者も健やかに暮らせる村を目指して

人が生活する上で大切なことが「健康」。高齢者に限らずどの世代にも当てはまります。蓬田村では健康づくりの推進として「健康よもぎた21」を策定し、すべての村民に保健・医療・福祉の一体的な推進、またバランスのとれた生活習慣の確立のため「健康相談」や「住民健診」や「おやこの食育教室」など各種事業の展開を行っています。

子育て支援では若い母親や父親のために育児サークルが作られ、情報や悩みを共有しながら交流を深め子育てをしています。また各種健診の実施や0～18歳までの医療費（入院・通院）を助成し子育て世代の負担軽減を行っています。

高齢者に対しては「援農ボランティア」などの地域参加の場の創出、スポーツやレクリエーションの交流の促進、医療福祉の向上、「たすけあい交通」などの生活面でのケアが行われています。



●おやこの食育教室



●老人スポーツ大会



●子育てサークル



●村民祭の健康相談

さまざまな取り組み



●いきいきなどわどサロン

健康長寿の村民を増やすため、高齢者を始めとする全住民を対象に、さまざまなことが仲間とできるサロンを作りました。例えば脳トレ（塗り絵や計算）、ミニトマトのパック詰め作業、体操、工作・手芸などが楽しめます。仲間と話をしたり一緒に食事を取ったりと生活に刺激と楽しさを持つことができます。



●いきいき百歳体操

高齢者の方々が健康長寿を目指して毎週１回、自治会の公民館で行っています。椅子に座ったまま手足を伸ばしたり、身体を曲げたりと誰でも簡単にできる運動です。みんなで集ればそこに会話が生まれ、会話が生まれれば笑いも生まれます。身体だけでなく心も健康になる体操です。



●たすけあい交通

行き先が同じ運行エリアにある時、乗り合いで利用できる車です。例えば運行地区（①蓬田村、②外ヶ浜町蟹田地区、③青森市）にある病院や商業施設に行く時に、日にちと時間を決めて複数人で行くことで一人の負担を少なくできます。最大４名まで、ご利用は予約制になっています。



●援農ボランティア活動

援農ボランティアは4月から10月の間、1日1～3時間程度、自分の好きな時間に無理なく適度な農作業をボランティアで行う健康的な生活習慣づくりです。内容は「ミニトマトパック詰め」と「玉ねぎ生産作業」の二種類。1時間の活動ごとに1ポイントがもらえて、ポイントが貯まるといろいろな生活用品と交換できます。



●蓬田小学校

基本目標と将来像

はつらつとした創造性豊かな人づくり

教育を通じて過去を学び未来を創る

勉強とは学校の中だけで教え学ぶものではありません。家庭、文化活動、趣味やスポーツなどを通じて生涯にわたりできるものです。

心身ともに健やかな青少年を育成することは、村にとってかけがえのない財産になります。そのためには家庭、学校、地域社会が全面的に協力し合い育てていく環境づくりが不可欠となります。例えば自然から学ぶ、文化や歴史から学ぶ、産業や社会から学ぶ、これらを教育の中に取り込んで奥の深い教育を行います。

そして歳をとっても誰もがいつでも・どこでも・自主的にできる学習の推進体制づくりを進め、施設整備や情報提供、指導者の確保・育成などを行い、生涯にわたり学べる環境づくりを目指します。





●蓬田中学校

村の財産である文化や施設を活用して老若男女が共に育つ

少子化が進む中、蓬田村も保育園、小・中学校に通う子どもたちの数は年々減少しています。しかしそのような状況だからこそ一人ひとりに十分な教育をする必要があります。

保育園はそれぞれの個性を伸ばし、よりきめ細かい指導ができるよう民営化を行い、小・中学校では画一的で平均的な教育ではなく、児童・生徒一人ひとりが創造性や自己教育力を育むことを目的とします。また、急速に進む国際化や情報化に対し、ALT（外国語指導助手）による英語教育の充実やコンピュータの導入による授業のICT化などを行っていますが、社会の質的な変化に伴う新たな対応が求められています。

また、自然に触れる大倉岳登山や黒滝散策、地元の産業を学ぶ農・漁業体験学習など蓬田村ならではの特徴ある学習や、より身近になった海外の文化に慣れ親しむための海外研修など、新しい教育も取り入れています。



●中学生海外研修報告会（村民祭）



●蓬田保育園体操教室



●スキー教室



●英会話教室

さまざまな取り組み



●海外研修

平成23年度から、蓬田中学校の3年生を対象に、英語力の向上、異文化体験を通しての国際社会で通用する人間力の養成を目的として、3泊4日程度の海外研修を行っています。これまで、台湾、シンガポールなどで研修を行っており、研修費は子ども達の未来への投資として全額村が負担しています。



●農業体験学習

蓬田小学校では毎年小学5年生を対象に学校田で田植えから稲刈り、脱穀の農業体験学習を行っています。田植えは「手植え」、稲刈りは鎌を使い、脱穀も昔の脱穀機を使うなど、すべて昔ながらの手作業で行われます。今では農業の大変さや大切さが学べる大事な授業となっています。



●子ども会リーダー研修会

夏休み期間中に2日間 にわたって行われる子ども会リーダー研修会。毎回10数名の小中学生が参加し、玉松台スポーツガーデンにテントを張ってキャンプをします。黒滝散策などの野外活動や、発明教室、野外炊事など、日常の生活では得がたい経験を通じ、成長できる研修会になっています。



●よもっと元気スポーツクラブ

村民の皆さんが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を作るために平成25年（2013年）にスタートしたスポーツクラブです。子どもからシニアまで幅広い世代で楽しめます。内容は「手踊りクラブ」「ラケットテニス」「ヨガスクール」「フットサル教室」4つ。



●トマト選果場

基本目標と将来像

活力ある産業の村づくり

地域とともに、希望とともに生きる



近年社会が大きく変化しています。流通の発達により外国はますます近くなり、外国産品が今まで以上に輸入されることになります。農業では海外のものに負けない安全・安心で付加価値の高い農作物を生産する攻めの農業を行うことが必要となりました。またホタテなどの海産物に関しても新しい販売ルートの開発、省力化や協業化、地域産品のブランド化が重要となりました。工業・商業も同様に付加価値の高い製品の開発や消費者のニーズに応えていくなど、地域産業の振興には創意と工夫が重要となっています。それと同時に人材や資源を有効に活用する新しい環境、また企業誘致により雇用を増やすなど、地域の未来に希望が持てる産業づくりを目指します。



農林水産業の６次産業化と近隣市町との連携で新しい産業振興を

今有力視されているのが「農林水産業の６次産業化」です。農林水産業の６次産業化とは、１次産業としての農林水産業と２次産業としての製造業、そして３次産業としての小売業などの事業を総合的に運営し、農山漁村の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組みです。こうすることで基幹産業の育成、雇用を増やすことに繋げていくことができます。

蓬田村では令和元年（2019年）に弘前大学と連携協定を結び、ホタテガイ養殖残渣堆肥を利用したタマネギのブランド化などの共同研究を行っているところです。そして工業の分野においても、既存の企業では地域と連携した業務の拡大を図り、また新たな雇用の場を作る新規の企業誘致に努めます。

また陸奥湾沿岸８市町村（青森市、むつ市、平内町、今別町、外ヶ浜町、野辺地町、横浜町、蓬田村）は『むつ湾広域連携協議会』を設立、陸奥湾の資源を活かした産業及び観光の振興に連携して取り組んでいきます。



●トマト販売



●農産物



●企業誘致（蓬田紳装）



●移住の取り組み（冊子「すき」）

さまざまな取り組み



●新製品の取り組み

今蓬田村では新旧を問わず新しい商品や販売ルートを作り出そうとする動きが出ています。20年以上の歴史を持つトマト加工品だけでなくトマトやホタテ、卵産業も新品種の開発やインターネットを使った販売を模索しています。また蓬田紳装でもカジュアル路線のジャケットを取り入れるなど新しい分野に挑戦しています。



●農林水産業の６次産業化

農業・水産業は自由化が進み、工業については生産拠点の見直しなど、これからの新しい時代はそのような変化に対応できる地域産業の地盤づくりや農林水産業の多面的な活用が求められています。蓬田村でも農林水産業の６次産業化に向けた取り組みを図り、新たな価値を産みだすことを目指しています。



●弘前大学との連携

令和元年（2019年）蓬田村と弘前大学が連携協定を結びました。連携協力するのは①地域産業の振興 ②地域文化の振興 ③健康・医療・福祉 ④人材育成 ⑤コミュニティ活動やまちづくり ⑥学校教育・社会教育 ⑦地方創生の7分野。これらを行うことで地域課題を解決し、活力ある地域を形成することを目指します。



●観光ルートの確立

蓬田村の豊かな自然や地理的特性、歴史的遺産を活用した観光の振興を図ります。玉松海岸周辺を観光やスポーツ、レクリエーションの場として充実させ、村の自然を生かしたグリーンツーリズムの充実や、マルシェよもぎた・村の駅よもっとを地場産業と直結させて集客を図り、さらには近隣市町との観光ネットワーク化を推進します。

行政と議会

経済や技術などを始め世界は信じられない速さで変化しています。その大きな要因がインターネットです。インターネットが軸となり社会は大きく変化し、世界はますます身近になりました。世界の情報は瞬時に伝えられ、貿易も人件費や輸送コストが下がり、ものが大量に輸出・輸入されています。仕事も自宅で行う時代が来ようとしています。このように世界のさまざまな出来事が私たちの住む蓬田村にも影響を与えていると考えられます。

そしてもうひとつ社会が発達していく中で変化してきたものがあります。それは私たちの価値観です。今までは経済や技術の発展に目を向けてきました。しかし自然環境との共生、ものの豊かさだけでなくこころの豊かさの充実、人と人との繋がりの大切さ、知識を元にした知恵を活かした生活の工夫など、物だけでなくこころのあり方も生活の中で重要な要素となりました。

このふたつの変化の中で村が持続していくのに一番必要なことが「本当の故郷となること」です。



教育長 **吉﨑 博**　蓬田村長 **久慈 修一**　副村長 **工藤 洋一**

まず環境を守りながら、地場産業を総合的に育成、6次産業化させ雇用の場を増やすことへと繋げていきます。その上で生活の基盤を固めながら将来を担う人材を育成します。将来的に村内で豊かで充実した生活ができる、たとえ村外へ出たとしても帰るべき場所となる村、すなわち「村民にとっての本当の故郷」になることを目指していきたいと考えています。

村民の皆さんのこころの支えになるそんな蓬田村を創り次世代へ引き継いでいきます。

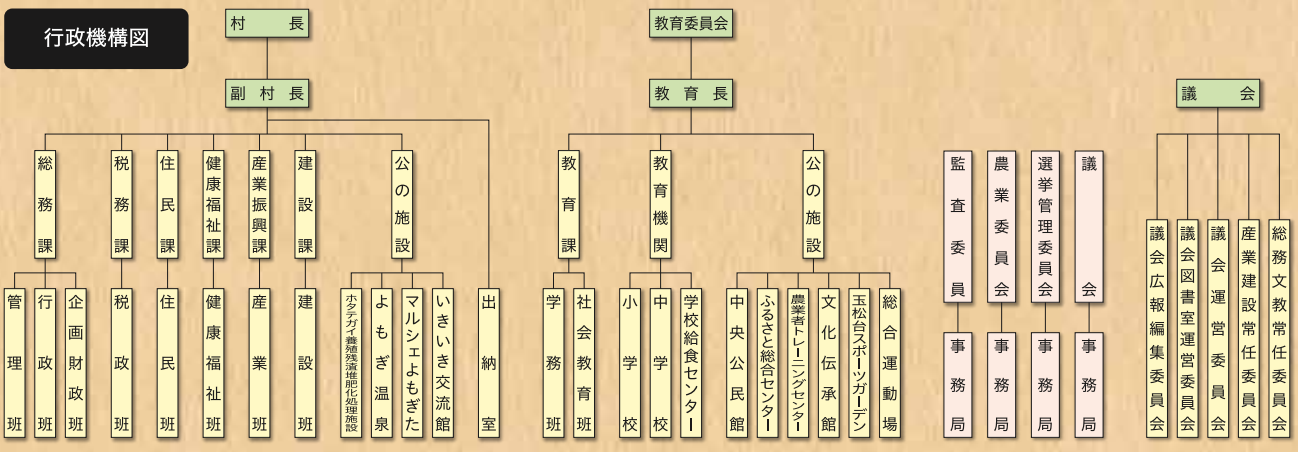
村議会議員 （令和3年12月現在）



村議会議長 木村　修
副議長 小鹿重一
議員 川﨑憲二
議員 久慈省悟
議員 柿﨑裕二
議員 森　弘美
議員 吉田　勉
議員 坂本　豊



行政機構図



蓬田村村民憲章（昭和43年11月23日制定）

私たちは、きびしい自然にうちかった祖先の不屈の精神を受けつぎ、蓬田村の村民であることに誇りをもち、明るく住みよい村づくりのため、すすんでこの憲章をかかげ実践いたします。

一　なんでも話しあい、たがいに助けあう
　　明るい村をつくりましょう

一　げんきで働き、楽しい家庭と
　　ゆたかな村をつくりましょう

一　こころから郷土を愛し
　　すすんですみよい村をつくりましょう

蓬田村村章（昭和43年7月16日制定）

図案説明
蓬田村の頭文字「ヨ」の字を図案化したもので、三本の尖った線とし、一番下は過去（祖先）、中は現在、上の長い線は未来（青少年）を意味し、限りなき発展と松葉のごとく強健にして融和と団結を表現したものです。



村の花「ハマナス」

【バラ科】本州北部・北海道の海岸に群生する。落葉低木で枝は太くとげがある。葉は羽状複葉。６－７月ごろ、枝頂に径約7cmの紅色の五弁花をつける。



村の鳥「オオハクチョウ」

【カモ目カモ科】翼を広げると2mを越し、身体は純白で脚は黒。くちばしは黒く、付け根が黄色。日本には冬鳥として渡来する。



村の木「クロマツ」

【マツ科】常緑高木。海岸に多く、樹皮は黒褐色。針葉が２本ずつ束生し、長くて堅い。全体に剛強なので雄松（おまつ）ともいう。

蓬田村の唄

◆蓬田音頭　作詞 吉田桃里　作曲 清野　健

一、山は紫　海面はのどか
　　村は米どこ　うたどころ
　　わいた唄コは　蓬田音頭
　　音頭とるのは　だれじゃやら

二、津軽むすめを　みるならおいで
　　笑顔見たけりゃ　またおいで
　　三度きたなら　音頭のてぶり
　　踊るそぶりの　しおらしさ

三、沖の白帆を　松原ごしに
　　憩う親子の　語りぐさ
　　村中揃って　心の意気を
　　むすぶ玉松　よい眺め

四、外が浜辺は　大舟小舟
　　植える魚介も　世の流れ
　　櫓べそ鳴らして　明治は遠い
　　夢はまぼろし　魚の波

五、大館殿さん　残したものに
　　これはお手植え　福寿草
　　小館みるとて　背のびの松が
　　みたは新興　村の幸

六、野良でエンジン　こだまが呼んで
　　鶏がはばたく　乳牛がよぶ
　　野菜畑に照る　日が昇りゃ
　　語るりんごは　紅の色

七、月のよい夜の　笠松さまは
　　池が鏡の　化粧なおし
　　誰のためとて　汗かき観音
　　みんな世のため　村のため

八、渡る世間は　かずかずあれど
　　蓬田恋しや　生まれどこ
　　唄う心に　うるおいあれば
　　踊る音頭も　花模様

◆蓬田小唄　作詞 前田はつえ　作曲 小倉尚継

一、偏東風（やませ）明けたよ　朝日が昇りゃ
　　東の海に　大漁船
　　西の田んぼは　花ざかり
　　シャンシャン手拍子　輪をつくりゃ
　　蓬田笑顔の　花ざかり

二、松の緑の　変わらぬ丘は
　　昔を語る　玉松台
　　磯じゃ波間に　子がはねる
　　シャンシャン手拍子　輪をつくりゃ
　　明日（あした）にはばたく　子がはねる

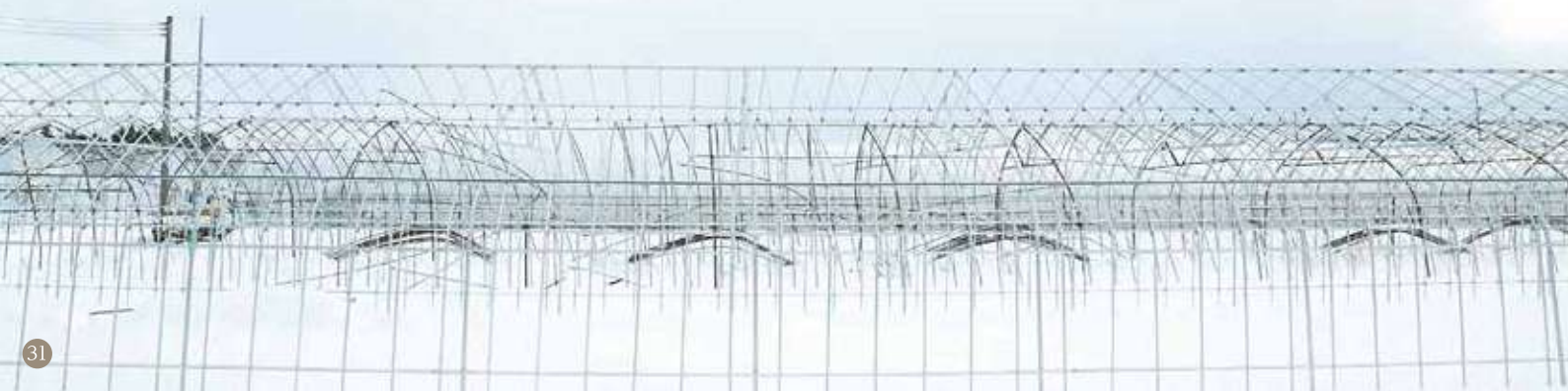
三、今日の汗をば　温泉（いでゆ）で流し
　　今宵楽しく　見る夢は
　　銀輪黄金（ぎんりんこがね）の宝蔵
　　シャンシャン手拍子　輪をつくりゃ
　　働くこの手に　宝蔵





データで見る
蓬田村





2022
蓬田村勢要覧
資料編

DATA FILE

蓬田村の歩み ―― 33
地　勢 ―― 37
人　口 ―― 37
消　防 ―― 38
産　業 ―― 38
教　育 ―― 42
民生衛生 ―― 43
選　挙 ―― 44
行 財 政 ―― 44
名　簿 ―― 45
神社仏閣・文化財 ― 46
主要施設一覧 ―― 46

蓬田村の歩み

明治10年～令和2年
1877～2020

明治10	1877	9	中沢小学校、蓬田小学校創立
		10	広瀬小学校創立
明治22	1889	4	町村制により後潟村から中沢、長科、阿弥陀川、蓬田、郷沢が、蟹田村から瀬辺地、広瀬が分離され蓬田村となる
明治33	1900	8	蓬田村農会発足（農協の前身）
明治36	1903	1	高根分教場設立
		1	蓬田村漁業組合創立
大正２	1913	8	蓬田村消防組結成
大正３	1914	11	東津軽郡青年団蓬田支部創立
昭和11	1936	7	通信電話取扱所設置
昭和13	1938	3	陸奥蓬田郵便局に改称
昭和15	1940		中沢に三浦医院開業
昭和18	1943	4	蓬田村国民健康保険組合設立
昭和20	1945	8	終戦
昭和22	1947	4	蓬田中学校創立（広瀬に分校）
			蓬田村連合婦人会結成、会員650名
昭和23	1948	2	蓬田村農業共済組合創立
		3	阿弥陀川地区に組合診療所開設
昭和25	1950	9	蓬田中学校新築校舎落成、統合
		11	組合診療所が村直営となる
昭和26	1951		庁舎新築（蓬田字汐越12番地）
		12	国鉄津軽線開通
昭和27	1952	4	蓬田村公民館発足（青空公民館）
昭和29	1954	9	高根分教場から高根小学校に格上
昭和30	1955		村民体育大会始まる
昭和32	1957		文化祭を開催
昭和34	1959	11	中沢、郷沢駅（無人）開設される
昭和35	1960	5	水田積雪寒冷事業区画整備完成（汐越）
昭和36	1961	1	蓬田村商工会設立
		11	古城の沼に鯉千匹を放流
		12	蓬田村女子青年建設班誕生
			津軽線開通十周年記念式典
昭和38	1963		会費制による模擬結婚式を実施（中沢）
昭和39	1964	7	村営玉松海水浴場開設
昭和40	1965		村民野球大会開催
		10	蓬田小学校新築（中沢、蓬田小統合）
昭和41	1966	2	蓬田地区第一子ども会結成
		4	蓬田保育所開設（旧中沢小改築）
		8～10	老人クラブ結成
			一次地域集団電話（農業）開設


昭和43年 大館城跡石碑


昭和44年 庁舎移転新築落成


昭和49年 村営高根スキー場開設


昭和54年 第１回村民祭

昭和41	1966	11	老人クラブ連合会結成
昭和43	1968	7	村章制定
		8	全地区子ども会結成
		9	蓬田村学校給食センター落成
			大館城跡石碑建立
			県道蟹田線、青森～蟹田間完全舗装化
		10	蓬田農協倉庫落成
		11	明治百周年記念式典、町村制施行80周年記念式典挙行、村民憲章制定
		12	村子ども会育成連絡協議会発足
昭和44	1969		県道蟹田線、国道（280号線）に昇格
		4	診療所を医師大澤保氏に委託貸与
		9	高根小学校橋竣工
		10	庁舎移転新築落成（蓬田字汐越１番地３）
昭和45	1970	2	蓬田村体育協会設立
		9	玉松公民館、児童館落成
			山村振興法指定村となる
昭和46	1971		国民年金の支給開始
昭和47	1972	1	児童手当制度発足
		4	広瀬小、高根小学校廃校（統合）、蓬田小学校１校となる
		5	蓬田幼稚園新設（旧広瀬小改築）
昭和48	1973	1	老人医療費支給制度開始
		6	中学校新築工事着手
		7	村史発刊記念式典挙行
		8	総合運動場設置
			高根、瀬辺地開拓線道路新設工事着手
昭和49	1974	1	村営高根スキー場開設
		8	蓬田中学校新築落成式典
			広瀬高根線全線舗装化
昭和50	1975	4	農村総合整備モデル事業開始
		10	中央公民館落成
昭和51	1976		全国町村会優良町村表彰
昭和52	1977	4	誘致企業「蓬田紳装」操業開始
昭和53	1978	12	老人憩いの家落成
昭和54	1979		第１回村民祭開催
昭和55	1980	7	旧中沢小学校解体
		10	温泉「蓬田村公衆浴場」落成（郷沢字浜田）
		11	保育所新築落成
			蓬田村新生活運動推進協議会発足


昭和57年 第１回陸奥湾一周駅伝競走大会


昭和62年 牧場祭り



平成４年 バイアスロン大会


平成５年 花火大会初開催

昭和56	1981	2	青少年育成蓬田村民会議結成
			玉松海水浴場階段堤防完成
昭和57	1982	3	蓬田川河川改修工事事業完成
			村営牧場完成
		10	第１回陸奥湾一周駅伝競走大会
昭和58	1983		公営住宅宮本団地30戸完成
		3	四戸橋川河川改修工事開始
		8	蓬田村老人クラブ連合会婦人部結成
昭和59	1984	3	農村情報連絡施設（防災無線）新設
		10	郷沢地区圃場整備事業着手
			村の花（ハマナス）・鳥（オオハクチョウ）・木（クロマツ）を制定
昭和60	1985	5	村文化財指定（５件）
昭和61	1986	7	農業者トレーニングセンター落成
			村文化財指定（１件）
		9	蓬田村ライスセンター落成（農協）
		12	村営スキー場開設
昭和62	1987	9	牧場祭り開催
昭和63	1988	3	JR津軽海峡線開通
平成元	1989	11	村制施行百周年記念式典挙行
		12	蓬田村修学奨励金貸与基金開始
平成２	1990	9	玉松地域開発事業開始
平成３	1991	1	村連合PTA創立20周年記念式典
		3	四戸橋川河川改修工事完成
		9	郷沢地区圃場整備事業完成
平成４	1992	9	バイアスロン大会開催 （平成８年からデュアスロン大会）
		10	蓬田村ふれあいセンター（よもぎ温泉）落成
平成５	1993	5	玉松台スポーツガーデン完成
		6	CCZ整備計画認定
		8	花火大会初開催
平成６	1994	5	玉松海水浴場トイレ（はまなす1号館）完成
平成７	1995	9	上水道整備計画着手
平成８	1996	3	地域防災無線システム完成
		11	児童館・玉松公民館解体
平成９	1997	4	過疎地域に指定
			簡易水道工事着手
平成10	1998	6	玉松海水浴場大型離岸堤完成
平成11	1999	3	ふるさと総合センター落成
		7	よもぎた物産館マルシェよもぎたオープン


平成12年 蓬田幼稚園閉園


平成24年 玉松野球クラブ50周年


平成25年 蓬田ジャズフェスティバル



平成29年 よもぎ温泉リニューアルオープン

平成11	1999	7	コミュニティバス運行開始
			蓬田紳装新工場落成
		8	新設ライスセンター落成
平成12	2000	3	たままつ海の情報館落成
		7	蓬田幼稚園閉園
		8	蓬田海岸CCZ整備事業完成
		9	国道280号バイパス内真部～蓬田小学校通り開通
平成13	2001	5	よもぎ温泉入浴者100万人達成
		7	グリーンタウン宅地分譲開始
		11	蓬田村文化伝承館完成
平成14	2002	6	JA東つがるトマト選果施設稼動開始
		8	住基ネットワークシステム一次サービス開始
			蓬田地下道（小学校通り）完成
		10	国道280号バイパス蓬田小学校通り～玉松台間開通
		12	ゴミ有料化開始
平成15	2003	7	水産物荷さばき施設完成
平成16	2004	10	蓬田小学校新校舎落成
平成17	2005	4	蓬田保育所・蓬田幼稚園民営化
		12	蓬田小学校新グラウンド完成
平成20	2008		蓬田漁港篭洗浄施設完成
平成22	2010	5	瀬辺地漁港篭洗浄施設完成
		11	国道280号バイパス玉松台～蟹田間開通
平成23	2011	4	蓬田村放課後児童クラブ開始
		11	村営住宅よもっと団地建設工事着手
平成24	2012	11	玉松野球クラブ50周年
平成25	2013	3	よもっと元気スポーツクラブ設立
		8	蓬田ジャズフェスティバル開催
平成27	2015	4	幼保連携型認定こども園 蓬田保育園設置認可
		6	蓬田村ホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設落成
平成28	2016	3	北海道新幹線新青森～新函館北斗間開業
平成29	2017	12	ふれあいセンター「よもぎ温泉」リニューアルオープン
平成30	2018	3	よもっと団地全50戸完成
令和元	2019	12	村制施行130周年記念式典挙行
			青森圏域連携中枢都市圏連携協約締結
令和２	2020	3	蓬田村史復刻版作成

地勢

■土地利用状況

（単位：Km²）

総面積	田	畑	宅地	山林	池沼	原野	雑種地	その他
80.84	11.22	1.21	0.84	61.51	0.02	3.84	0.87	1.33

資料：税務課（固定資産税概要調書　令和３年１月１日現在）

■気象状況

（観測点：蟹田）

年　次	降水量（mm）		気温（℃）			平均風速（m/s）	日照時間（h）
	合　計	日最大	日平均	最　高	最　低		
平成28年	1,328.5	74.5	9.7	31.2	-11.5	3.4	1,517.1
平成29年	1,397.5	78.0	9.5	33.5	-11.0	3.4	1,578.3
平成30年	1,779.5	133.0	9.8	31.3	-13.1	3.5	1,463.6
令和元年	933.5	49.0	10.1	32.3	-9.1	3.5	1,675.9
令和２年	1,289.0	71.0	10.4	32.9	-10.7	3.3	1,433.7

資料：青森地方気象台

人口

■住民登録人口・世帯数

世帯数（戸）	人口（人）			一世帯当りの人員数（人）
	総数	男	女	
1,145	2,648	1,282	1,366	2.3

資料：住民課（令和３年12月末）

■人口動態

区分／年次	自然動態（人）							社会動態（人）							婚姻（件）	離婚（件）	人口増（人）
	自然増計	出生			死亡			社会増計	転入			転出					
		計	男	女	計	男	女		計	男	女	計	男	女			
平成12年	△23	20	9	11	43	29	14	△５	89	39	50	94	42	52	18	2	△28
平成17年	△31	16	6	10	47	27	20	6	83	29	54	77	33	44	10	7	△25
平成22年	△43	21	14	7	64	33	31	△16	51	25	26	67	34	33	8	5	△59
平成27年	△34	18	9	9	52	26	26	△20	58	31	27	78	38	40	6	5	△54
令和２年	△42	3	0	3	45	22	23	△20	25	9	16	45	19	26	4	1	△62

資料：住民課

■国勢調査人口

	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成２年	平成７年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口（人）	4,371	4,360	4,275	4,052	3,786	3,480	3,405	3,271	2,896
世帯数（戸）	971	991	1,011	999	997	981	994	1,062	953
０～14歳（人）	1,110	980	882	733	562	480	390	332	291
15～64歳（人）	2,819	2,874	2,801	2,651	2,417	2,054	2,004	1,872	1,500
65歳以上（人）	442	506	592	668	807	946	1,011	1,067	1,080

資料：国勢調査

消防

令和３年４月１日現在

団　名	地　区	団員数	消防施設					
			ポンプ自動車	ポンプ積載車	小型動力ポンプ	防火水槽（40㎥以上）	防火水槽（40㎥未満）	消火栓
本　　団	－	8	－	－	－	－	－	－
第１分団	中　沢	17	1		1	12	4	2
第２分団	長　科	15		1	1	9	3	2
第３分団	阿弥陀川	21		1	1	9	4	4
第４分団	蓬　田	10		1	1	8	3	2
第５分団	郷　沢	9		1	1	12	1	5
第６分団	瀬辺地	12		1	1	6	4	4
第７分団	広　瀬	13	1		1	8	6	3
第８分団	高　根	10		1	1	6		3
計		115	2	6	8	70	25	25

資料：総務課

産業

■就業人口

（単位：人、％）

区分／年次	総　数	第１次産業		第２次産業		第３次産業	
		人　員	構成比	人　員	構成比	人　員	構成比
平成７年	1,999	649	32.5	652	32.6	698	34.9
平成12年	1,809	548	30.3	558	30.8	703	38.9
平成17年	1,647	537	32.6	393	23.9	717	43.5
平成22年	1,613	469	29.1	423	26.2	721	44.7
平成27年	1,411	409	29.0	314	22.2	688	48.8

資料：国勢調査

■産業別生産額

（単位：百万円）

区分／年次	農　業	林　業	水産業	鉱　業	建設業	製造業	計
平成26年	1,048	11	316	－	3,795	634	5,804
平成27年	1,388	11	479	－	3,130	598	5,606
平成28年	1,521	10	589	－	1,090	542	3,752
平成29年	1,568	9	379	－	912	555	3,423
平成30年	1,502	10	471	－	601	470	3,054

資料：市町村民経済計算

産　業

■村民所得

（単位：千円）

区分 / 年次	蓬田村 村民平均所得	青森県民 平均所得	郡平均所得（4町村）
平成26年	2,390	2,399	2,302
平成27年	2,505	2,536	2,276
平成28年	2,198	2,570	2,112
平成29年	2,162	2,509	2,091
平成30年	2,092	2,507	2,030

資料：市町村民経済計算

■事業所数

（単位：軒、人）

区分 / 年次	総数		農林漁業		建設業		製造業		運輸・通信業		卸・小売業		サービス業	
	事業所	従事者	事業所	従事者	事業所	従事者	事業所	従事者	事業所	従事者	事業所	従事者	事業所	従事者
平成28年	82	702	2	21	17	78	2	228	1	2	23	152	37	221

資料：平成28年経済センサス-活動調査

農林業

■農家の概要

（単位：戸、人、a）

区分 / 年次	農家数					農家人口			経営耕地面積			
	計	自給的農家	専業農家	兼業農家		合計	男	女	耕地総面積	田	畑	樹園地
				第一種	第二種							
平成12年	363	32	30	98	203	1,607	778	829	97,311	92,637	4,552	122
平成17年	340	56	35	87	162	1,239	589	650	92,632	89,259	3,288	—
平成22年	295	42	56	69	128	1,039	494	545	92,520	89,517	2,973	30
平成27年	246	46	55	43	102	278	156	122	92,000	89,400	2,600	—
令和２年	194	30	50	22	92	248	161	87	117,600	106,000	11,600	—

資料：農林業センサス

■経営耕地規模別農家数

（単位：戸、ha）

区分 / 年次	計	自給的農家	販売農家										
		0.3ha未満	0.3ha未満	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～3.0	3.0～5.0	5.0～10.0	10.0～20.0	20.0～30.0	30ha以上
平成12年	363	32	2	21	45	42	36	64	68	48	5	0	0
平成17年	340	56	0	11	33	39	27	50	72	44	8	0	0
平成22年	295	42	0	11	24	31	27	39	62	49	9	1	0
平成27年	205	3	0	5	19	23	17	29	54	41	12	1	1
令和２年	169	2	1	8	15	17	13	19	34	38	16	4	2

資料：農林業センサス

■普通作物

（単位：ha、t）

区分／年次	水稲		そば		トマト	
	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量
平成26年	602	3,540	268	35	12	555
令和２年	500	2,205	273	50	7	352

資料：JA蓬田支店調

■家畜状況

（単位：戸、頭、羽）

区分／年次	乳用牛		肉用牛		採卵鶏	
	農家数	頭数	農家数	頭数	農家数	羽数
平成28年	1	14	2	4	5	449,462
平成29年	1	15	2	3	5	428,096
平成30年	1	12	2	4	5	454,540
令和元年	1	13	2	3	4	455,352
令和２年	1	12	1	2	4	425,910

資料：産業振興課調

■林野面積

（単位：ha）

林野面積	現況森林面積									森林以外の草生地（野草地）	所有形態別	
	合計	森林（施業）計画による森林面積							伐採跡地ほか		国有	民有
		樹林地										
		計	人工林			天然林						
			小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	広葉樹				
6,258	5,993	5,872	2,823	2,809	14	3,049	964	2,085	121	265	5,199	1,059

資料：令和３年度版森林資源統計書

漁　業

■漁業別水揚数量及び金額

（単位：kg・千円）

漁種別 ＼ 年次		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和２年度	
		漁獲量	漁獲高	漁獲量	漁獲高	漁獲量	漁獲高	漁獲量	漁獲高	漁獲量	漁獲高
魚類	まいわし	1,110	174			14,585	612	4,717	169	405,955	2,471
	さば	177	24			51	12	900	189	455	90
	たら	109	37	223	58	1,540	317	664	138	845	267
	たい	2,448	1,727	2,242	1,155	1,884	752	3,803	2,168	2,177	1,051
	ひらめ	3,012	2,488	2,438	1,744	2,059	1,762	2,730	1,990	293	255
	あじ	5,069	905	638	167			1,650	362	6,283	693
	そい	1,227	301	740	195	829	257	971	283	618	126
	その他魚類	7,448	2,071	8,951	2,595	3,164	1,208	11,699	2,402	741	224
	魚類小計	20,600	7,727	15,232	5,914	24,112	4,920	27,134	7,701	417,367	5,177
貝類	ほたてがい（半成貝）	4,462,214	674,750	2,419,282	532,486	4,426,403	615,569	6,409,530	737,377	5,597,384	566,785
	ほたてがい(新貝)	1,242	224								
	ほたてがい(成貝)	766,890	169,954	59,140	24,355	914,433	137,391	36,935	10,012	65,278	9,182
	ほたてがい計	5,230,346	844,928	2,478,422	556,841	5,340,836	752,960	6,446,465	747,389	5,662,662	575,967
	その他貝類					56	84	34	44	7	5
	貝類小計	5,230,346	844,928	2,478,422	556,841	5,340,892	753,044	6,446,499	747,433	5,662,669	575,972
その他の水産動物	するめいか（近海生）	150	37	160	79	125	38	9,763	302	3,940	59
	なまこ	14,592	43,046	17,436	64,512	11,139	36,760	6,987	18,515	12,942	30,414
	その他水産動物	1,041	302	393	129	1,373	258	550	234	170	78
	水産動物小計	15,783	43,385	17,989	64,720	12,637	37,056	17,300	19,051	17,052	30,551
合　計		5,266,729	896,040	2,511,643	627,475	5,377,641	795,020	6,490,933	774,185	6,097,088	611,700

資料：青森県海面漁業に関する調査結果書（一部編集）

■漁業協同組合状況

（単位：人）

組合名	組合員	役職員		
		理事	監事	職員
蓬田村漁業協同組合	66	5	2	7

■専業・兼業別個人経営体数

（単位：戸）

区分 ＼ 年次	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年
専業	23	31	34	5	5
第１種兼業	28	22	20	45	40
第２種兼業	15	16	12	7	1
計	66	69	66	57	46

資料：農林水産統計年報

教　育

■歴代教育委員長

歴順	氏　名	就　任	退　任
1	張　間　音　吉	昭和27.11. 1	昭和28.10.31
2	高　田　平之助	昭和28.11. 1	昭和29.10.31
3	田　中　吉兵衛	昭和29.11. 1	昭和30.10.31
4	久　慈　勇　丈	昭和30.11. 1	昭和31.10.24
5	八　幡　邦　雄	昭和31.10.25	昭和32. 9.30
6	坂　本　友太郎	昭和32.10. 1	昭和33. 9.30
7	佐　藤　琢　法	昭和33.10. 1	昭和34. 9.30
8	飯　田　伊　一	昭和34.10. 1	昭和35. 9.30
9	八　幡　邦　雄	昭和35.10. 1	昭和36. 9.30
10	張　間　周太郎	昭和36.10. 1	昭和37. 9.30
11	久　慈　留太郎	昭和37.10. 1	昭和38. 9.30
12	細　谷　与三郎	昭和38.10. 1	昭和39. 9.30
13	八　幡　邦　雄	昭和39.10. 1	昭和40. 9.30
14	坂　本　甚　吾	昭和40.10. 1	昭和42. 4. 6
15	飯　田　岩　吉	昭和42. 4. 7	昭和43. 9.30
16	久　慈　寛　一	昭和43.10. 1	昭和44. 9.30
17	張　間　亀　男	昭和44.10. 1	昭和45. 9.30
18	中　村　政五郎	昭和45.10. 1	昭和47. 9.30
19	八　幡　武　雄	昭和47.10. 1	昭和48. 9.30
20	吉　田　清　光	昭和48.10. 1	昭和52. 9.30
21	桜　田　正三郎	昭和52.10. 1	昭和55. 9.30
22	久　慈　寛　一	昭和55.10. 1	昭和62. 4.30
23	澤　田　年　榮	昭和63.10. 1	平成 7. 9.30
24	張　間　鐵　男	平成 7.10. 1	平成20.10.31
25	久　慈　正　明	平成20.11. 4	平成25.11. 3
26	武　井　昭　夫	平成25.11. 4	平成29.12.25

■歴代教育長職務代理者

歴代	氏　名	就　任	退　任
1	武　井　昭　夫	平成29.12.26	

■歴代教育長

歴代	氏名	就任	退任
1	森　　光　秀	昭和28. 4. 1	昭和45. 9.30
2	田　中　一　雄	昭和45.10. 1	昭和55. 9.30
3	武　井　一　郎	昭和55.10. 1	昭和62. 4.30
4	奈　良　　伊	昭和63.10. 7	平成 4. 9.30
5	奈　良　良　成	平成 4.11. 1	平成 9.11.10
6	坂　本　　敏	平成10. 9.30	平成20.10.31
7	八　戸　良　幸	平成21. 3.23	平成25. 3.12
8	吉　﨑　　博	平成26. 1. 1	

■小学校の概況

（単位：人）

区分／年次	学校数	学級数	教職員数 計	教職員数 男	教職員数 女	事務員数 計	事務員数 男	事務員数 女	児童数 計	児童数 男	児童数 女	1学年 男	1学年 女	2学年 男	2学年 女	3学年 男	3学年 女	4学年 男	4学年 女	5学年 男	5学年 女	6学年 男	6学年 女	特別支援学級	児童数 1学級当り	児童数 1教員当り
昭和60年	1	13	17	10	7	3	1	2	393	195	198	31	44	32	30	33	28	34	29	25	44	28	34	1	32.7	23.1
平成 7年	1	12	17	7	10	1	−	1	261	135	126	23	22	21	17	22	20	19	23	21	22	29	22	−	21.8	15.4
平成17年	1	7	12	5	7	1	−	1	170	81	89	8	16	16	14	16	11	17	11	10	19	14	18	1	24.3	14.2
平成27年	1	8	15	6	9	1	−	1	121	63	58	8	10	13	8	12	9	8	12	9	9	13	10	2	15.1	8.1
令和 2年	1	8	16	7	9	1	−	1	123	71	52	13	8	11	7	10	8	19	8	10	9	8	12	2	15.4	7.7

資料：学年基本調査（各年５月１日）

■中学校の概況

（単位：人）

区分／年次	学校数	学級数	教職員数 計	教職員数 男	教職員数 女	事務員数 計	事務員数 男	事務員数 女	生徒数 計	生徒数 男	生徒数 女	1学年 男	1学年 女	2学年 男	2学年 女	3学年 男	3学年 女	特別支援学級	生徒数 1学級当り	生徒数 1教員当り
昭和60年	1	7	15	8	7	2	−	2	214	100	114	37	39	26	38	37	37	1	30.5	14.2
平成 7年	1	5	14	9	5	1	1	−	127	66	61	25	22	19	18	22	21	−	25.4	9.1
平成17年	1	3	12	7	5	1	−	1	95	52	43	15	16	15	15	22	12	−	31.7	7.9
平成27年	1	5	14	7	7	1	−	1	65	36	29	14	9	10	12	12	8	2	13.0	4.6
令和 2年	1	4	13	6	7	1	−	1	64	36	28	14	7	14	10	8	11	1	16.0	4.9

資料：学年基本調査（各年５月１日）

民生衛生

■国保加入状況

（単位：戸、人、千円、%）

区分 / 年度	総人口		被保険者		加入率		保険税		
	世　帯	人　員	世　帯	人　員	世　帯	人　員	調定額	入済額	収納率
平成28年度	1,166	2,899	514	957	44.09	33.02	102,355	95,222	93.03
平成29年度	1,157	2,846	511	936	44.17	32.89	118,583	107,676	90.80
平成30年度	1,155	2,792	492	897	42.60	32.13	108,995	102,136	93.71
令和元年度	1,147	2,740	476	857	41.50	31.28	114,644	107,306	93.60
令和２年度	1,145	2,677	473	843	41.32	31.50	102,252	96,748	94.62

資料：住民課

■国保保険給付状況

（単位：千円）

区分 / 年度	費用額	保険者負担分	被保険者負担分	高額医療費	他法負担分
平成28年度	330,006	239,186	78,449	29,248	12,371
平成29年度	335,429	240,928	82,844	32,211	11,656
平成30年度	329,291	237,353	83,588	34,170	8,350
令和元年度	388,373	283,972	95,794	41,926	8,608
令和２年度	331,398	244,715	80,251	37,152	6,432

資料：住民課

■各種検（健）診の受診状況

（単位：人）

区分 / 年度	胃ガン	大腸ガン	子宮ガン	乳ガン	肺ガン	前立腺ガン	特定健診・後期高齢者健診
平成28年度	276	373	76	97	399	144	359
平成29年度	277	365	131	116	399	147	358
平成30年度	294	404	105	109	426	156	376
令和元年度	275	423	102	101	431	152	382
令和２年度	258	425	112	109	426	157	385

資料：健康福祉課

■出生状況

（単位：人）

区分 / 年度	出生数	新生児死亡数	周産期死亡数	乳児死亡数
平成28年	16	0	0	0
平成29年	17	0	0	0
平成30年	10	0	0	0
令和元年	11	0	0	0
令和２年	3	0	0	0

資料：健康福祉課

■主要死亡因別死亡者数

（単位：人）

区分 / 年度	合計	ガン	脳血管疾患	心疾患	呼吸器疾患	高血圧性疾患	糖尿病	腎疾患	不慮の事故	その他
平成27年	48	11	4	7	5	0	1	2	1	17
平成28年	65	15	4	13	4	0	2	2	3	22
平成29年	56	13	5	11	6	2	1	1	0	17
平成30年	42	13	6	8	2	1	0	0	1	11
令和元年	57	13	9	12	5	2	0	1	2	13

資料：健康福祉課

選　挙

■選挙人名簿登録者数

（単位：人）

区分 / 投票区名	有権者数			行政区
	男	女	計	
第１投票区	246	275	521	中沢・長科
第２投票区	563	622	1,185	阿弥陀川・ぐっと・蓬田・宮本・郷沢
第３投票区	253	276	529	瀬辺地・広瀬
第４投票区	51	56	107	高根
計	1,113	1,229	2,342	

資料：選挙管理委員会（令和３年12月１日現在）

行財政

■村財政状況（決算額）

（単位：千円）

区分 / 年度	一般会計		国民健康保険特別会計		学校給食センター特別会計	
	歳　入	歳　出	歳　入	歳　出	歳　入	歳　出
平成28年度	2,473,491	2,429,772	513,768	510,804	21,063	21,034
平成29年度	2,370,080	2,341,654	534,967	532,999	20,837	20,802
平成30年度	2,276,989	2,214,180	456,525	452,819	22,004	21,978
令和元年度	2,136,311	2,096,409	515,546	514,012	20,833	20,819
令和２年度	2,762,384	2,680,690	474,648	473,477	26,223	25,576

区分 / 年度	簡易水道事業特別会計		介護保険特別会計		宅地造成事業特別会計		後期高齢者医療特別会計	
	歳　入	歳　出	歳　入	歳　出	歳　入	歳　出	歳　入	歳　出
平成28年度	97,390	97,231	476,559	457,856	4,665	4,660	84,414	84,383
平成29年度	102,892	102,724	474,353	473,859	5	5	77,075	76,951
平成30年度	102,857	101,167	485,437	484,994	1	0	88,824	88,756
令和元年度	90,301	89,349	491,150	490,786	183	182	95,543	95,473
令和２年度	88,416	86,948	485,432	482,697			89,641	89,520

資料：総務課

■村税の内訳

年　度	区　分	単　位	村民税	固定資産税	軽自動車税	たばこ税	計
平成28年度	収入額	千円	88,468	96,812	9,231	29,840	224,351
	徴収率	%	91.3	92.1	93.1	100.0	92.8
平成29年度	収入額	千円	96,899	151,181	9,597	28,349	286,026
	徴収率	%	91.4	95.3	92.8	100.0	94.3
平成30年度	収入額	千円	84,841	145,787	9,713	27,948	268,289
	徴収率	%	92.0	95.1	93.6	100.0	94.5
令和元年度	収入額	千円	87,283	140,095	10,208	28,712	266,298
	徴収率	%	92.4	94.9	94.9	100.0	94.6
令和２年度	収入額	千円	85,086	145,250	10,582	28,369	269,287
	徴収率	%	92.2	95.7	95.6	100.0	95.0

資料：税務課

名　簿

■歴代村長

歴順	氏　名	任　期
1	寺　田　松四郎	明治22.6.24～明治24.10.27
2	樋　口　一　雄	明治25.4.10～明治25.5.2
3	坂　本　与　作	明治25.8.24～明治29.8.23
4	八　戸　弥太郎	明治29.8.31～明治33.8.30
5	八　戸　弥太郎	明治33.8.31～明治33.10.29
6	坂　本　与　作	明治33.12.31～明治37.12.13
7	小　畑　兵　治	明治37.12.14～明治41.12.13
8	坂　本　義　徹	明治42.1.18～大正2.1.17
9	坂　本　義　徹	大正2.1.18～大正6.1.17
10	青　木　三次郎	大正6.2.28～大正11.2.27
11	坂　本　喜三郎	大正11.6.8～大正11.10.14
12	森　　藤　八	大正11.11.7～大正15.11.6
13	坂　本　種　一	大正15.11.7～昭和5.11.6
14 15	八　戸　専九郎	昭和5.12.1～昭和12.4.6
16 17	田　中　吉　松	昭和12.4.16～昭和22.2.18
18	武　井　巳之吉	昭和22.4.5～昭和26.4.4
19	武　井　巳之吉	昭和26.4.20～昭和30.4.20
20	武　井　巳之吉	昭和30.5.1～昭和34.4.30
21	坂　本　大　博	昭和34.5.1～昭和38.4.30
22	武　井　一　郎	昭和38.5.1～昭和42.4.30
23	坂　本　大　博	昭和42.5.1～昭和46.4.30
24	坂　本　大　博	昭和46.5.1～昭和50.4.30
25	坂　本　大　博	昭和50.5.1～昭和54.4.30
26	森　　初　男	昭和54.5.1～昭和58.4.30
27	森　　初　男	昭和58.5.1～昭和62.4.30
28	八　戸　良次郎	昭和62.5.1～平成3.4.29
29	八　戸　良次郎	平成3.4.30～平成7.4.29
30	八　戸　良次郎	平成7.4.30～平成9.10.11
31	古　川　正　隆	平成9.11.9. ～平成13.11.8
32	古　川　正　隆	平成13.11.9～平成17.11.8
33	古　川　正　隆	平成17.11.9～平成21.11.8
34	古　川　正　隆	平成21.11.9～平成25.11.8
35	久　慈　修　一	平成25.11.9～平成29.11.8
36	久　慈　修　一	平成29.11.9～令和3.11.8
37	久　慈　修　一	令和3.11.9～在任中

■歴代議長

歴順	氏　名	任　期
1	張　間　音　吉	昭和22.4.30～昭和26.3.29
2	坂　本　文　春	昭和26.3.30～昭和26.4.29
3	清　水　専　造	昭和26.5.2～昭和30.4.29
4	清　水　専　造	昭和30.5.6～昭和34.4.29
5	武　井　一　郎	昭和34.5.6. ～昭和38.4.23
6	清　水　専　造	昭和38.5.11～昭和42.4.29
7	森　　初　男	昭和42.5.7～昭和44.4.15
8	山　口　与　八	昭和44.5.6～昭和44.11.16
9	坂　本　孫九郎	昭和44.11.17～昭和46.4.29
10	柿　﨑　喜代作	昭和46.5.6～昭和50.4.29
11	坂　本　孫九郎	昭和50.5.8～昭和54.4.29
12	坂　本　増　吉	昭和54.5.7～昭和58.4.29
13	坂　本　増　吉	昭和58.5.6～昭和62.4.29
14	津　島　鐵　男	昭和62.5.8～平成3.4.29
15	清　水　信　造	平成3.5.8～平成7.4.29
16	津　島　鐵　男	平成7.5.8～平成11.4.29
17	清　水　信　造	平成11.5.10～平成15.4.29
18	久　慈　隆　一	平成15.5.9～平成19.4.29
19	久　慈　隆　一	平成19.5.9～平成23.4.29
20	木　村　　修	平成23.5.10～平成27.4.29
21	藤　田　修　一	平成27.5.15～平成31.4.29
22	木　村　　修	令和元.5.17～在任中

■職種別職員数

令和３年４月１日現在

区分	事務吏員	保健師	運転手	計
人員	56	4	4	64

神社仏閣・文化財

■神社仏閣

施設名	所在地
中沢稲荷神社	中沢字池田
長科稲荷神社	長科字川瀬
阿弥陀川稲荷神社	阿弥陀川字汐干
蓬田八幡宮	蓬田字宮本
郷沢稲荷神社	郷沢字浜田
瀬辺地天満宮	瀬辺地字田浦
広瀬八幡宮	広瀬字坂元
高根八幡宮	広瀬字高根
瀧沢山正法院	阿弥陀川字汐干
西仰山楽宝寺	広瀬字坂元
傘松仏苑観音堂	中沢字浪返

■文化財

指定種別	名称	所在地	指定年月日
県指定	円空仏 （菩薩座像）	蓬田村大字阿弥陀川字汐干29 正法院	昭和41年１月12日
村指定	中沢小学校記念館	蓬田村大字中沢	昭和60年５月 １日
	擦文土器	蓬田村大字阿弥陀川 （倉谷弘孝氏所有）	昭和60年５月 １日
	玉　松	蓬田村大字瀬辺地字山田	昭和60年５月 １日
	傘　松	蓬田村大字中沢字浪返	昭和60年５月 １日

主要施設一覧

名　　称	所　在　地	電話（0174）
蓬田村役場	蓬田村大字蓬田字汐越１番地３	27-2111
蓬田村教育委員会	蓬田村大字郷沢字浜田136番地76	31-3111
ふるさと総合センター	蓬田村大字郷沢字浜田136番地76	31-3200
蓬田村中央公民館	蓬田村大字蓬田字汐越12番地	31-3111
蓬田村文化伝承館	蓬田村大字広瀬字坂元26番地1	31-3111
幼保連携型認定こども園 蓬田保育園	蓬田村大字中沢字浪返48番地２	27-2180
蓬田小学校	蓬田村大字阿弥陀川字汐干198番地148	27-2069
蓬田中学校	蓬田村大字郷沢字浜田138番地24	27-2038
学校給食センター	蓬田村大字郷沢字浜田138番地24	27-2116
蓬田村土地改良区	蓬田村大字蓬田字汐越１番地３	27-2073
蓬田診療所	蓬田村大字郷沢字浜田140番地5	27-2011
青森農業協同組合蓬田支店	蓬田村大字阿弥陀川字汐干52番地1	27-3111
蓬田村漁業協同組合	蓬田村大字郷沢字浜田217番地	27-2006
蓬田村商工会	蓬田村大字郷沢字浜田142番地36	27-2450
陸奥蓬田郵便局	蓬田村大字蓬田字汐越13番地3	27-2050
広瀬簡易郵便局	蓬田村大字広瀬字坂元633番地	27-2367
外ヶ浜警察署蓬田駐在所	蓬田村大字郷沢字浜田136番地102	27-2036
中沢自治会公民館	蓬田村大字中沢字浪返4番地1	27-3302
新長科自治会公民館	蓬田村大字長科字浦田43番地1	27-2931
阿弥陀川自治会公民館	蓬田村大字阿弥陀川字汐干56番地11	27-2935
よもっと団地集会所	蓬田村大字阿弥陀川字汐干113番地1	－
蓬田自治会公民館	蓬田村大字蓬田字汐越37番地１	27-2451
郷沢自治会館	蓬田村大字郷沢字浜田153番地11	27-3982
瀬辺地民生会館	蓬田村大字瀬辺地字田浦35番地2	27-2767
広瀬自治会公民館	蓬田村大字広瀬字坂元608番地1	27-2643
高根自治会公民館	蓬田村大字広瀬字坂元672番地1	27-2370
農業者トレーニングセンター	蓬田村大字蓬田字宮本41番地11	27-3010
玉松台スポーツガーデン	蓬田村大字瀬辺地字山田1番地31	27-2170
蓬田村ホタテガイ養殖残渣堆肥化処理施設	蓬田村大字郷沢字浜田137番地375	27-3120
いきいき交流館（蓬田村社会福祉協議会）	蓬田村大字瀬辺地字山田35番地84	27-2828
蓬田村ライスセンター	蓬田村大字阿弥陀川字汐干198番地90	27-2582
株式会社蓬田紳装	蓬田村大字郷沢字浜田138番地88	27-2345
蓬田村建設機械センター	蓬田村大字蓬田字汐越79番地1	27-3106
よもぎた物産館「マルシェよもぎた」	蓬田村大字郷沢字浜田地内	31-3040
蓬田村ふれあいセンター「よもぎ温泉」	蓬田村大字郷沢字浜田136番地4	27-2170
村の駅よもっと	蓬田村大字阿弥陀川字汐干106番地	31-3115
正法院	蓬田村大字阿弥陀川字汐干29番地	27-2012
楽宝寺	蓬田村大字広瀬字坂元870番地1	27-2842

蓬田村のデータ

●面積
80.84 km²

●人口（令和３年12月末現在）
2,648人（男1,282人・女1,366人）

●世帯数（令和３年12月末現在）
1,145世帯

●歴史
1889年（明治22年）４月１日の町村制施行に伴い、中沢村、長科村、阿弥陀川村、蓬田村、郷沢村、瀬辺地村、広瀬村が合併して村制施行。



蓬田村は、青森市に隣接しており、市街地までは約20kmと近距離。村内を縦断する国道280号バイパスやJR津軽線を利用すれば、東北新幹線のJR新青森駅や北海道新幹線のJR奥津軽いまべつ駅へのアクセスも簡単です。北海道へも新青森駅から新函館北斗駅まで最速で約1時間となり、北海道も身近になりました。

蓬田村 2022 村勢要覧

■発　　行／令和４年４月１日
■蓬田村役場／青森県東津軽郡蓬田村大字蓬田字汐越１番地３
TEL.0174-27-2111　FAX.0174-27-3255
■編　　集／蓬田村役場（総務課）
■印　　刷／青森コロニー印刷

